

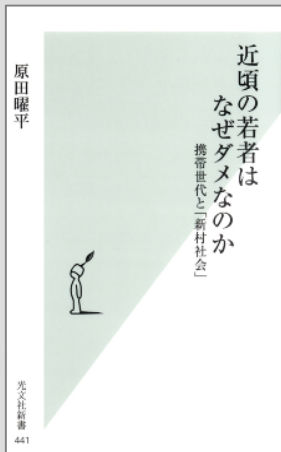
近頃の若者はなぜダメなのか

携帯世代と「新村社会」

著者：博報堂研究開発局 原田曜平
 刊行：2010年1月
 出版社：光文社新書
 定価：本体820円+税

<目次>

- はじめに 若者はなぜ過剰に空気を読むようになったのか？
- 第1章 “読空術”を駆使する若者たち
 —KY復活現象の謎
- 第2章 知り合い増えすぎ現象
 —“新村社会”の誕生
- 第3章 村八分にならないためのルール
 —新村社会の掟と罰
- 第4章 半径5キロメートル生活
 —若者を覆う「既視感」の正体
- 第5章 ちぢこまるケータイネイティブ
 —若者はなぜ安定を望むのか？
- 第6章 つなかりに目覚めた若者ネットワーカー
 —新村社会の勝ち組とは
- 第7章 近頃の若者をなぜダメだと思ってしまうのか？
 —世代論を超えて
- 付録 「ある男子大学生の≪1週間、全送受信メール≫」



若者研究を担当するマーケッターである著者は、7年をかけて、47都道府県1000人以上の10代半ば～20代後半の若者と実際に会い、友達のような関係になりながら、じっくりと話を聞きました。そこから見てきたのは、32歳の著者ですら驚くほど劇的に変化した、彼らの生活と人間関係でした。

彼らは、中高生の頃からケータイを持ち始めた、日本で初めての世代です。この年齢からケータイを持ち始めることによって、若者の人間関係は大きく変わりました。ケータイは彼らの間に巨大なネットワークを生み、そこには、お互いに空気を読んで協調性を保つことが求められる、かつての「村社会」のような状況が復活したのです。

本書はこの「新村社会」の実態を、若者たちが自ら語ってくれた多数のエピソードをもとに明らかにします。新村社会はネットワーク社会。ネットワークを有効活用できるかは、当人の行動力次第。中には、巨大なネットワークを大いに活用し、世代や地域・国をも超えて交際範囲と行動範囲を広げる「超ネットワーカー」とも呼べる若者も現れ始めています。

本書を読むことで、近頃の若者のリアルな姿を肌感覚で理解できるようになるでしょう。